

ホワイトプランパートⅡ元年 さらなる市民総参画で前進！

平成十三年度二月市議会定例会が、二月二十一日から三月九日までの日程で開かれました。

今回の議案は、各種条例の制定や一部改正、平成十三年度一般会計及び特別会計、水道事業会計の当初予算など計三十三件で、すべて原案のとおり可決されました。

市議会開会日の二月二十一日、川井市長から平成十三年度を迎えるに当たり、施政方針が表明されましたので掲載いたします。



健康福祉・環境・生涯学習
IT先端都市白石を目指して

当市がこれまで進めてまいりました第三次白石市総合計画「ホワイトプラン」の実施期間は、日本全国でのバブル経済とバブル崩壊という大きな社会経済変化を経験し、また、二十世紀型システムの制度疲労とともに、さまざまな制度改革が進められた時期でもありました。

そのような中において、本市は適切な財政運営と時代を先取りした計画によって、「ホワイトプラン」を着実に推進し、二十一世紀のためのほとんどの基盤整備について、完了を見てまいりました。

しかしながら、グローバル化の進む経済社会と少子高齢社会、そして成熟社会の到来、多様な価値を実現する高度情報化社会の出現、さらには中央集権型社会から地方分権型社会への移行など、本市にとりましてもこれまでに前例のない新たな時代を迎えております。特に、地方分権は単に権限が国や県から市町村に移譲されることだけではなく、国と地方自治体が対等の関係の中で、自らの知恵と自らの工夫で都市間競争に勝ち抜いて行かなければならないという、重い責任を持つ時代であります。

このようなことから、二十一世紀の本市のまちづくりは、これまで市民の皆様からいただいたご意見をもとに策定され、今議会にご提案申し上げます第四次白石市総合計画「ホワイトプランパートⅡ」に基づき、新たな時代認識とともに、地域社会の変化に的確に対応したまちづくりを進めてまいらなければなりません。

「ホワイトプランパートⅡ」元年となる本年は、この理念に基づき、四つの大きな柱となる「健康・福祉都市」、「環境都市」、「生涯学習都市」、「IT先端都市」の実現を目指しながら、くらし日本一のまちづくりを進めてまいります。



第4次白石市総合計画に、市民各層の意見を十分反映させるため開催されたワークショップ「まちづくり会議」

本年はその準備として、市民の方々の意見を反映させるためのワークショップを開催するなど、施設内容等について決定してまいります。

介護保険に該当しない高齢者に対する市独自の福祉施策については、昨年度から実施し好評を得ております。「生きがいデイサービス」の定員増を図るとともに、新たに「バリアフリー住宅促進事業」を創設し、自立者で住民税非課税世帯を対象として、手すり設置、トイレ改修、床段差解消などの個人住宅改修費用を助成してまいります。

福祉と併せた保健事業については、介護保険、福祉サービスなどの調整を図りながら、保健サービスが必要とする方々へ訪問指導を行い、保健と医療の連携によって在宅介護の積極的なサポートを行ってまいります。

また、毎年実施している各種がん検診に、本年度から新たに「前立腺がん検診」を導入し、市民の健康に努めてまいります。

保健・福祉・医療

初めに、第四次白石市総合計画の中で最大の柱となり、二十一世紀の高齢社会で最も重要なものが福祉であります。

そのような意味で、私の公約の最初に「健康・福祉都市」の実現を掲げております。具体的には、第一に「保健・医療・福祉」の中核となる公立刈田総合病院の十四年春の開院であり、最新の医療機器と優秀な医師・看護婦によって、最高の医療が提供されるよう努めてまいります。

第二に、介護保険制度の定着を図るために、より一層の介護サービスの向上を目指し、市内中心部にデイサービスセンターなどの福祉関連施設を整備してまいります。



好評を得ている「生きがいデイサービス」(スパッシュランド)

◀ 来年春の開院にむけて工事が進む
公立刈田総合病院(福岡蔵本本地内)

